

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01735001248		
法人名	特定医療法人社団千寿会		
事業所名	高齢者グループホームプラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0173501248-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	平成 31 年 2 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念をもとに、一人一人の価値観やこだわりを大事にケアし実践に繋げている。また、入居者一人ひとりのやり逃げたい事は何かを本人から話を聞くことを大切に対応を行っている。また、ホーム周辺は自然がたくさんあり春夏秋冬、四季折々の景色が楽しみ、開放感があり明るいスタッフが多く笑いの絶えない事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR登別駅から登別温泉方向へ車で10分程の国道沿いにあります。法人母体の病院が隣接しており、協力医療機関となっています。受診時の移動距離が少なく、利用者身体の負担軽減につながっており、看護師の24時間対応は家族や職員にとっても安心な協力体制です。又、近くにある同法人の介護老人保健施設は災害時避難場所になっています。災害対策では災害対策マニュアルを整備、カセットコンロ、電池、水、食料品は1週間分を備蓄、停電対策としては母体病院、事業所とも発電機の整備を検討しています。胆振東部大地震時、職員が駆けつけ利用者に寄り添い、事業所で不足の物を持ち寄り、利用者のいっしょの生活を連携で支援をしました。地域との付き合いは町内会は無く、散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり中学校から餅つきの手と臼を借りる付き合い等と、少ない状況ですが、近くの系列事業所2カ所が住宅街にあり、合同の運営推進会議で地域の住民の意見や協力を得ることで事業所が孤立することなく、地域の情報収集や付き合いにつながっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの役割を理解し、事業所理念を作っている。スタッフもその理念の下、実際の支援に繋がっている。	運営理念の下、事業所理念を作成し玄関に掲示、管理者と職員は日々のケアの中で理念が反映されているか会議で確認、共有実践に繋がっています。又、次年度、ユニット毎のケア理念の見直しを検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の衰退により交流の機会は減少しているが、近所の方と散歩などで話し交流している。	三町会、夏祭りに利用者は家族と一緒に参加し交流をしています。散歩中に近隣の住民と挨拶を交わしたり、系列事業所と合同で地域と交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症家族教室(福寿の会)が定期的に行われている。また、市内のグループホーム友の会に参加し、地域の人々への活動をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人クラブの会長、市職員、警察、消防、ご家族、包括職員に参加いただき、事業所の取組などの報告を行い、ご意見を頂いているが、ご家族の参加が少ない。	市職員、地域包括支援センター職員、警察署職員、利用者家族は利用者の声を代弁する役割もあるため、家族の来訪時の会話から得た身近な話題を議題として取り入れたり、家族通信で会議案内をするなど、家族の運営推進会議の意義の理解と会議の参加につながる取り組みに期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	統括マネージャー、管理者が市役所介護グループと連絡を取り合っている。	統括マネージャーは毎月、市役所へ出向き情報の交換など協力関係に取り組んでいます。また、母体法人病院主催で医師が講師を務める市民公開講座を行う際などの機会にも、運営推進会議参加の行政関係者に情報伝えるなど連携をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを日頃から実践している。ミーティングなどでスタッフ間で話し合い、再確認を行っているが、緊急やむをえない3つの条件において行っている例もある。	外出傾向の利用者の根本的な不安や混乱の要因を取り除く支援は、利用者が納得するまで寄り添い、一緒に歩きながら話を聞くケアを実践しています。事故防止委員会は3ヵ月に1回開催して検討事例や取り組みを共有しています。外部研修、高齢者虐待防止研修は管理者が参加してミーティング時に全職員の正しく理解に繋げて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の定義など冊子を利用し、自分達のケアが虐待に繋がらないかを改めて話し合い再確認している。講習会への参加も促していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会、話し合うことが出来ていない。研修会などへの参加を促していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。改正があった場合は文書にて通達。説明し理解をしていただくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 日頃から日常の様子をご家族にお伝えし、意見や気持ちを伺えるようにしている。	前回外部評価の目標課題であった家族へのアンケートは取組達成に至っておりませんが、家族の来訪時や遠方の家族に電話をする際には利用者の様子を伝え、話を聞き要望に応えるよう努めています。家族通信は一人ひとりの利用者家族宛に枠を設け、近況を伝えていきます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括マネージャーや管理者との面談が毎年行われている。意見が反映されているかは疑問を感じる。	個別面談を行い年1回、「目標設定・達成状況」の話し合いを行っています。管理者、職員は話しやすい環境の中、ケアの相談や勤務に関する意見や要望などについて話をする機会が多くあります。内部研修の実施や職員不足は今後の課題となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採用し、個人目標を設定し、各スタッフが取り組みを行っており、成果に応じた昇給に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはスタッフの力量を判断し、参加させるようにしている。 実践の場で学ぶ機会の確保にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のグループホーム友の会に入り、他の施設との交流や意見交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談では、ご家族から情報提供して頂き確認している。入居後もご家族と連絡をとり密に関わりあい、信頼構築に努め、本人の想いに添ったケアが実践できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの思い・要望は、管理者から伝達を受けたり、来設時にこちらから声を掛けて関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランを作成し支援を開始している。その後の様子を見極めながらプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・させる側ではなく、お互いに生活を共にするという姿勢で主体性のある行動が出来るようにスタッフは見守っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの場がグループホームになっても、ご家族がスタッフと一緒に支援していける関係を築くよう関わりを努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や買い物など、これまでの暮らしを把握し支援している。	利用者が以前住んでいた場所や美容室へ行き、帰りは馴染みの店で買い物をする等関係継続の支援をしています。親戚の方の来訪があったり、誕生日には家族も一緒のお祝いを積極的に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のそれぞれの関わりを理解し、スタッフは余り介入せず見極めながら見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に立ち寄ってもらえるよう声を掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や言葉、表情などから本人の望みが理解できるよう関わりを大切にしている。常に本人が中心になるように検討している。	思いや意向の把握が困難な場合は、日頃の行動や表情を「本人がどう感じているか」との関心を持って観察し、医師からのアドバイス、管理者や職員の話し合いなどで思いや意向を汲んだケアに取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツール、センター方式を活用し情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族から頂いた情報や現在の状態をアセスメントツールを活用し、把握することでケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに課題やケアの方法などを話しあっている。	介護計画作成時は担当者のアセスメントや個別介護経過記録の情報、利用者や家族の要望を踏まえて本人本位の介護計画を作成をしています。介護計画は6ヵ月毎に見直していますが変化時は随時見直し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過に都度記載し、ケアプラン沿った支援が出来ているか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要と感じる支援については、現場内で直ぐに対応できるように努めている。その際、情報伝達を心がけ全員が共通認識のもとで支援が実践できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加するなど、地域の中での暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を聞き受診に繋げるよう努めている。	かかりつけ医や協力医の受診には一人ひとりの日々の身体状況が記録された「温度板」を持参し、同行受診をしています。申し送りノートや個別台帳に受診を記録し、薬など変更があれば家族に説明して情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師や担当医に相談しながら、適宜適切な対応ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや病棟看護師と連絡・情報を共有し、出来るだけ早期に退院、安心して入院治療が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を確認し話し合いを行い、事業所で出来ることを説明し方針を検討している。	重度化した場合には家族に段階ごとに説明の機会を設け、かかりつけ医と方針を共有しながら事業所で出来ることを十分に説明しています。看取りに関しては、看護師が24時間対応可能ですが、チーム体制が整っておらず行なわれていません。今後、体制整備後の看取り支援を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で実施される救急救命の研修に参加している。また、急変時の対応についてはマニュアルを完備し、スタッフが対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練は実施しているが、災害時の訓練については実施出来ない。	年2回、消防署立ち合いの下、避難訓練を実施しています。胆振東部大地震の経験から、災害対策マニュアルを整備、カセットコンロ、電池、水等、食材は1週間分を備蓄しています。停電対策は発電機の整備を検討中です。	胆振東部大地震の影響もあり今年度予定の災害訓練を行なう事ができませんでしたが、災害対策マニュアルを整備し協力体制も出来ていますので、今後、様々な自然災害を想定した訓練の実施で、全職員が確実に避難できる方法を身につけられる取り組みに期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の行動やサインを見逃さず、さりげなく声をかけるように努め、利用者の羞恥心などに配慮した対応をしている。	日々の言葉かけなどの対応に関して、管理者と職員は話し合い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことの徹底に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や行動から意志をくみ取り尊重している。指示や押し付けにならないような言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの過ごし方を尊重した支援を行っているが、できないと感じることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服などご本人の希望を聞きながら、ご本人が身だしなみに気持ちが向かうよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけではなく、何を食いたいかを考えるところから始めるよう工夫している。 準備から片付けまで入居者が行えるよう支援している。	利用者は職員と食材の準備、味付け、盛り付けをし、職員も一緒に食事をしていきます。食事の過ごし方にこだわりがある利用者には本人本位に沿った支援となるよう配慮しています。中庭ベンチでおやつを食べたり、当日のメニューを掲示して食事の楽しみにつながるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて工夫している。 食事・水分量ともすぐ確認し、対応できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じた口腔ケアを行っている。また、法人内の歯科・口腔外科にて義歯の調整など状態に応じて受診対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し、排泄パターンを把握することで、個々の状況に応じた支援を行っている。	日中、夜間ともトイレでの自立排泄可能です。夜間、声かけの利用者もありますが、紙おむつやポータブルの利用者はいません。水分、排泄は個別の記録簿である「温度板」のパターンシートに記録し、一人ひとりのパターン、習慣を活かした支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜・繊維質の物を加えたり、乳製品・オリゴ糖入りの飲み物を提供したり、出来るだけ自然排便に繋がるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来るだけ本人の希望やペースに沿った入浴が出来るよう努めている。 入浴できない時は清拭なども行っている。	午前、午後の時間帯で入浴できる体制を整え、利用者の体調に合わせて週2回入浴をしています。入浴を拒む利用者はなく、浴室では介助の職員と話をしながら入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を把握し、生活リズムを整えたり、寝る前に安心できるような会話するなど安眠に繋げるよう支援している。 日中でも本人の様子を見ながら適時休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬表を作成し、スタッフが服薬している薬を把握するよう努めている。内服後に症状の変化に気がついた時は、医師や看護師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを把握し、毎日の生活の中で活かすことが出来るよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿ってドライブに行ったり、近所を散歩し地域の方とお話をするなどの支援を行っている。また、ご本人の希望を家族に伝え、外出へと繋げている。	日常的な外出は散歩や買い物などを行っています。以前住んでいた地域への外出、ユニット毎の外出はワンボックスカーで遠出外出を行っています。車イス利用者も戸外へ出る支援を家族と職員が協力して行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は殆ど事業所でお預かりしているが、なかには、お金を所持されている入居者もあり、買い物などでご本人が支払できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事業所の電話を自由に使用することができる。手紙を書いている人はいないが、年賀状のやりとりは行っていたこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るよう飾り付けしたり、行事や普段の様子の写真を飾ったり、居心地の良い場となるよう工夫している。	玄関を入ったところにある半円形の事務所は訪問者を迎えやすく、左右に分かれたユニットは職員や利用者が行き来しやすい造りになっています。冬期間乾燥対策として温度、湿度を日に7回チェック、記録し心地よく過ごせるよう支援しています。共用空間は季節感のある飾りつけをしています。混乱を招く恐れがあるものにはカーテンをかけ、居心地の良い場を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士自然と集えるようリビングのソファの位置など、入居者の過ごし方に合わせ配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みなど、入居時からご家族に働きかけ協力して頂いている。	明るく清潔感のある居室はクローゼットが広く、ベット、寝具、テレビやテレビ台を事業所で設置しています。利用者は馴染みの家具や仏壇等を持ち込み、家族の写真を飾るなど心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の状況に応じ、行動しやすい工夫をしている。トイレと認識して頂けるよう工夫している。		